

## 論文内容の要旨

専攻名	経営意思決定 専攻	氏名	太田 啓介
題名	わが国における建設機械レンタル産業の戦略グループ： その段階的変遷と個別企業の競争戦略		
<p>論文内容の要旨</p> <p>本稿の目的は、元来、保護下でない産業の企業に妥当する、Porter をはじめとする古典的戦略論が、保護下にある広義の建設業、すなわち建設機械レンタル産業（以下、建機レンタル産業）に適合するかどうかに着目し、これを科学的に検証することである。</p> <p>建機レンタル産業は、隣接する建設産業を主要顧客としながら発展を続けている。また、建設産業には、保護産業であるがゆえの特殊な構造が示される。このため、建機レンタル産業においても独自の構造的変遷がみられ、同産業を通常の競争戦略理論で検証しようとする、結果の一部に実態との乖離が発生する。</p> <p>このような問題は、以下のような状況において発生する。1 つには、戦略論の視点を業界分析から企業分析に移すときに、環境要因を排除してしまう傾向が多いことにある。企業の戦略的な競争行動を分析する場合、これは実際には企業単体で成立しないため、複数企業相互の競争関係を念頭に入れる必要がある。</p> <p>2 つ目には、企業単体に焦点をあてすぎると、その分析が、業界内における特別事例の抽出となる場合があり、これが実際の産業変遷と整合が取れない場合や、産業全体への論証への乏しさを招くといった結果をもたらす。いずれにしても、これらの課題を解決するためには、分析対象の産業に適合した、分析の枠組みが必要であると考えられる。</p> <p>上記より、建機レンタル産業における一般的な産業内分析では、表面的な成長戦略や、差別化要因の比較といった、短絡的な分析に終始する可能性を残す。本稿では、このような問題を解消するために、建機レンタル産業内を戦略グループの手法で分類し、この枠組みのもとで競争戦略論への適合を検証し、なおかつ実態との乖離がない説明が可能であることを示している。</p> <p>戦略グループとは、同一もしくは類似の戦略行動を示す企業のグループであり、それぞれのグループ分類は戦略次元と呼ばれる軸をもって決定される。戦略グループの分類では、通常、垂直統合や製品ラインといった戦略次元が用いられる。しかし、本稿においては、主に隣接産業である建設産業の影響を考慮するために、通説的な戦略次元とは異なる結果が予想される。このことは、理論的含意のみならず、現実の産業分析にも新たな視点を付け加えると期待される。また、建機レンタル産業の競争行動を産業動態から分析したものは少ない点に、本稿の意義がある。</p>			

氏名	太田 啓介
<p>本稿は、以下で構成されている。</p> <p>第 1 章では、一般的な製造業等から派生した、競争戦略理論の適用範囲に批判的な視座を示した上で、本稿による分析手法を提示している。</p> <p>第 2 章では、サービス業の中でも、必ずしも周知の産業ではない建機レンタル産業について、この産業概要を説明している。次に、同産業の産業動態についてテキストマイニングの手法を用いて分析している。</p> <p>第 3 章では、先行研究についてのレビューを行っている。大きくは、産業と企業成長に関するレビューと、戦略論についてのレビューに分類されている。また、戦略論については、競争戦略論を中心にレビューしている。理由は、本稿が扱う問題に対しての分析を競争戦略論を中心として進めるからになる。一部、多角化といった企業戦略論の場面にふれている部分もあるが、それが論拠の中心となることはない。よって、競争戦略論を中心にレビューを進めており、どのような点に理論的課題が存在するのかを抽出している。</p> <p>第 4 章では、建機レンタル産業内の構造の変化に大きく影響を与える、建設業界の、公共工事入札の仕組みについて分析をしている。その後、参入と撤退の障壁の議論に基づき、建機レンタル産業の段階的変遷過程をみている。</p> <p>第 5 章では、戦略グループの概要を示した後に、戦略次元となりうる 2 軸の考察を行い、建機レンタル産業における戦略グループをプロットしている。次に、分類による分析結果をもとに、各戦略グループの戦略の傾向について考察し、これを実際の競争戦略論にあてはめて整合をはかっている。また、本章の分析では、あくまで戦略グループレベルの分析に留めており、戦略論を含めた総合的な分析や評価については後の章で示している。</p> <p>第 6 章では、第 5 章で示された戦略グループの分類をもとに、事例企業の分析を行っている。事例企業については、戦略グループで分類された各階層から戦略次元の 2 軸の考察をもとに、それぞれ 1 社を選択している。また、事例抽出については、策定された戦略の明確さが主な判断基準となっている。分析では、戦略グループの象徴的な例として取り上げた各企業の戦略の転換点や変遷を辿り、戦略グループの影響も考慮しながら戦略的特徴を分析している。</p> <p>第 7 章では、戦略グループの分類によって事例も含めた産業の戦略的変遷が、競争戦略理論で問題なく整理され、また説明できることを確認した後に、今後の課題を展望している。</p>	